評価年月日　令和６年８月 22 日
研 究 所 名　畜産センター

［完了評価］

課題名　早期母子分離・人工哺乳による黒毛和種子牛生産性向上技術の確立（平成 31～令和５年度）

【課題の概要】

現在、繁殖経営は戸数・飼養頭数ともに減少しており、子牛の効率的な増頭が求められている。早期母子分離は、母牛の発情回帰の早期化による分娩間隔の短縮が見込まれることから、子牛の増頭につながる有効な技術であるが、本県においては、早期母子分離を用いた飼養管理は一部の繁殖経営での活用にとどまっている。本試験では、早期母子分離および人工哺乳期間短縮による子牛の発育や第一胃性状への影響、母牛の繁殖性への影響等について検証し、早期母子分離を活用した子牛生産技術の体系化（マニュアル化）を図る。

その結果、子牛では、早期母子分離および人工哺乳期間短縮による発育値および第一胃等への大きな影響はなく、人工哺乳期間の短縮も見込まれた。母牛では、早期に母子分離することで、子宮回復、初回発情の早期化、分娩間隔が短縮するなどの効果が確認され、生産コスト低減、子牛の効率的な増頭につながる飼養方法として有用であることが示された。

【評価結果】（評価委員数　４名）

○各項目の評価（各評価委員の平均点）

研究目標の達成度・副次的効果	成果の意義・波及効果	成果の普及	合計点
4.0	4.3	4.0	12.3

○総合評価　　４：良

（１：不良　２：やや不良　３：適当　４：良　５：優良）

【委員の意見・助言と対応策】

評価項目	意見・助言	
研究目標の達成度・副次的効果	開発した手法でコスト削減等の農家へのメリットが示されており、十分な研究成果を得られていると考える。	
成果の活用・普及等への波及の可能性	咆哮回数の減少は、農家周辺の住人にとってもメリットがある。その点でも現場への早期普及が図られるのが望ましい。また、労力及びコストの低減が見込めるため普及の可能性は高い。	
残された問題点の解決方策について	畜産農家での経済的・作業効率の実質的な効果が発揮できるよう、幅広い周知、きめ細やかなサポートをお願いしたい。	
総合評価	意見・助言	対応策
	本成果を踏まえてマニュアル化と普及指導を早急に進めていただきたい。	本試験での結果を踏まえ、早期母子分離を活用した子牛生産技術の体系化マニュアルを作成し、飼養管理手法のひとつの選択肢となるよう HP への掲載、関係機関への情報提供を行っております。 また、農家へは、農林事務所等と連携して本技術の普及指導を行ってまいります。